



石破茂 地方創生 担当大臣 来島

隠岐國学習センター新校舎にて



(株)ふるさと海士のC A S
凍結センター



海士いわがき生産(株)



(有)隠岐潮風ファーム

国が進める地方創生への取り組みの一環で、地域における意欲あるチャレンジや地域のニーズを把握して今後に活かすため、石破茂地方創生担当大臣が4月29、30日の2日間にわたり海士町および西ノ島町を視察しました。29日午後、隠岐4島の町長らが出迎える中、石破大臣、溝口善兵衛島根県知事ら合わせて15名が菱浦港に到着。現職の大臣が隠岐諸島を公式訪問するのは、平成26年6月の新藤義孝元総務大臣に続く2人目です。30日は早朝からマリンポートホテル海士にて、海士町の人づくり施策についてプレゼンテーションが行われ、高校魅力化プロデュース(当時)の岩本悠さん、(株)巡の環の阿部裕志さんが、それぞれの取り組みの経緯や目指したい未来を語りました。

島前地域の公立塾「隠岐國学習センター」では、島前高校3年生や、海士町版創生総合戦略策定に関わる「明日の海士をつくる会」(あすあま)のメンバーらと地域活性化にかける想いを交換しました。海士町での視察を終えた石破大臣は記者団の質問に応え、海士町を視察した感想として、「国が行う地方創生のモデルとなる、あるいはその先を行く海士町の取り組みを目の当たりにして極めて深い感銘を受けた。50年先にどういう町にしたいか、そのために今何をすべきか、そのような議論の仕方には学ぶべきところが多々ある。議論の段階から『産・官・学・金・労・言』(※)の6つのジャンルの人が集まることが大切であり、(海士町のあすあまでは)まさにそれを実践している」と話しました。

(※)産業界・市町村や国の関係行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア(言論)



北は北海道から南は沖縄まで全国からの参加者たちが揃う中、30日朝8時半頃に海士町の菱浦港で出発式。今年も島の踊り子さんたちによるキンニャモニャ踊りに見送られ、エイエイオーの掛け声も威勢よく、参加者147名が一斉にスタートしました。

家督山の緩やかなアップダウンや木々のトンネル、海が見える角山など、気持ち良く歩けるコース。地元民がフルーツポンチをふるまう休憩所での触れ合いを楽しみつつ、完歩した皆さんは、次なる知夫里島へと渡っていきました。

がいな感謝祭

4 月 25 日(土)、キンニャモニャセンターにて「がいな感謝祭」が催されました。キンセン創業を記念して平成14年から毎年3月に行われているイベントですが、今年は改装オープン記念も併せてのスペシャル版となりました。

芸能ステージでは、東京で最も歴史ある民謡酒場「追分」(浅草)から実力派ユニット「火の國屋」が登場。迫力ある演奏で来場者を圧倒しました。保育園の皆さんのキンニャモニャ、漁協の安井裕行さんによる約30キロのマグロ解体ショーなどもあり、締めは豪華な餅投げ。1万円相当のハーンが入った錢餅が10個も用意され、大賑わいとなりました。



元気な海士

パワー溢れる海士人の活動・活躍をご紹介します！



女性もシュート！



フットサルフェス 蹴球祭

5月3日(日)・4日(月)、ひまわり運動公園において、「フットサルフェスティバル Vol.7 蹴球祭」が開催されました。今回町外からは西ノ島町のチーム「TMW」と松江市の「TMN」、そして出雲市からの個人参加2名、あわせて約15名の選手が来島しました。

オープン部門の他、ミックスでは地元の女性らが参加し、違うチームの選手どうして混成チームを作ってプレー。新鮮な雰囲気楽しい試合となりました。

地元チーム「蹴球一家」の万代キャプテンは今後の継続開催に向け、「町外のチームがまた次回も来たいと思ってくれるように、海士らしいおもてなしと海士ならではの楽しさがある大会を続けていきたい。来年も絶対にやります！」と熱く語っています。

5月30日(土)から6月1日(月)までの3日間、隠岐4島を巡ってウォーキングを楽しむイベント「第13回とつて隠岐スリーデーウォーク」が開かれました。海士町が含まれる「中ノ島・知夫里島コース」は10km、23km、30kmと3コースあり、人気が高いのは2つの島をまたぐ23kmと30kmのコースです。



とつて隠岐！
スリーデーウォーク

※QRコードを読み取ると動画が観られます。操作手順はP4〜5参照。